

# 橋本絵莉子波多野裕文

## 旅について

### 橋本絵莉子

旅、どちらかと言うと、得意ではないと思う。  
なぜかと言えば、家が好きだから。  
やはり、今回二行で終わってしまおう。やはりよはいよ。というわけで、少し掘り下げようと思えます。

私が退出が苦手になったのは、思い起せば、車酔いという体験をしてから。ちっさい頃、親に連れられて自然豊かな山道を車で走るたびに、窓を開け、青白い顔を突き出し「ちょっと降りたい」「ゆっくり走って」の繰り返しでした。幼なじみ家族との旅行などでも、幼なじみのK君も酔いやすく、二人で車内で5/8チップをきゅきゅと食べていたかと思えば、十分後には両者ダウンし、どちらかがリバースしたことから、超ノロノロ運転で目的地に向かうことがお決まりになっていました。その頃は酔い止めの存在を知らず、今思えばなぜ教えてくれてなかったのか、不思議です。

と、ここまででは、慣れ親しんだ家族や幼なじみと一緒の遠出なので、吐くのが吐くまいが、まあいいのです。ところが小学生の私に問題がやってきました。修学旅行です。奈良、京都です。バスです。ディーゼルエンジンです。クラス

では、いろんな係が決められます。オリエンテーション係とか、いろいろ。その中に、汚物処理係がありました。私は、その係の子に話を聞いた。母に相談。すると、手首につける、酔い止めのリストバンドがあるとの情報が、すぐに買ってもらいました。効果はバツグン。以前の私なら、バスに近づいただけでもオツとなっていたのに、そのリストバンドを手首につけるとゼーゼーんぜん大丈夫。恥ずかしくなかないよ。金閣寺最高！ 八つ橋美味しい！ とっても楽しい修学旅行になりました。

そのリストバンドのおかげで、小、中、高すべての修学旅行を満喫しました。船で寝るのも平気だったし、初めての飛行機で北海道へ飛ぶのも平気でした。

そしてついに、そのリストバンドを卒業する日がきたのです。まっかには、コンタクトレンズでした。小学生時代から進んだ近視により、裸眼ではあまり見えないことが、私の場合、酔いにつながっていたのです。学校の授業中にしかメガネをかけなかった中で、休み時間に遠くから「えっちゃん」と呼ぶ友達を声と制服の輪郭のみで誰か判断していたし、知らない学生に手を振っておもいきり無視されるということが、当たり前になっていたのです。高校卒業と同時に、

コンタクトにしました。するとどうでしょう！

信男ってこんなに綺麗に点灯してるの？ 車のヘッドライトってこんなに幻想的な？ あれ、私、車に乗っても酔わないよ。視力が良いって、なんて素晴らしい。コンタクトにした日から、車内で読書やゲームはできないにしても、ジツとしてこれは酔わないし、絶対酔う人からたまに酔う人になりました。今でも、タクシーは緊張感あるし、高所恐怖症ゆえに飛行機も苦手だけど。

さあ、ようやく旅の話です。私が今まで経験した旅で、一番遠出と言えは、バンドでツアーしたアメリカと、母と旅したフランス。アメリカは、しょっぱなから珍道中で(DVD『VIEW MORE』参照)なかなか大変だったけど、今思えば、めちゃくちゃ楽しかった。ほんとに最高だった。トラン

ジツのドタバタも、「アイムベジタリアン」と言うと味付けなしで出てきたサンドイッチも、二十三日からのライブも。初対面で開口一番「あなた達に会えたから、もう今日は最高！」と言ってくれたインビュアーは、アメリカにしかない。その距離感のなさと、たまにいるそっけない人とのバランスに、感動しました。一方フランスは、母と二人旅ということもあって、私がしっかりしなきゃ！と思いつつ、早朝のフライトだったので成田に一泊したのだけど、たぶんフランスのホテルより成田のホテルの私達が一番はしゃいでた。二人ともテンションが上がって、パリ

の旅行雑誌めぐりまくりでした。フランスは、パンの美味しさが異常でした。ありえないサイズのフランスパンを、各自一本べつと食べてました。でも母が持参したお醤油を、現地のカニカマにかけて食べるのも美味しかった。お目当てのモンブラン、ルーアル美術館、アルザス地方、わりと順調に旅できました。でも最終日に行ったクレープ屋の店員さんが日本人で癒されて、緊張が解けて、ちょっと泣きました。

バンドの全国ツアーも本日に旅。

しかもライブしながらの旅。非日常に身を置き続けると、ふだん見えないものが見えてくるし、今度はそれが日常になってくる。ツアー中のバンドは、生き物として、別物になってると思う。その感覚こそがツアーの醍醐味だし、バンドのこれからの行き先を示してくれる。私ほだいたい本の虫になっちゃ、夜はあまり眠れなくなっちゃって、ライブの本番二時間と少しのためだけに生きてる動物になる。

息子と旅というと、双方の実家、つまり徳島と北海道に行くのが、おさまりの旅です。まだ知らないところには、あまり旅したことはない。息子は酔い知らずで、飛行機にも怖じしない東京生まれ東京育ちのシティボーイなので、彼にもう少し体力がついたら、私の体力がなくなる前に、一緒にどこかに行きたいなと思えます。

橋本絵莉子



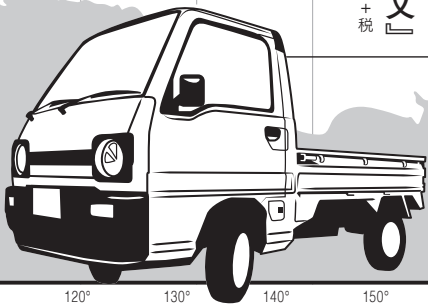
## 本子野文 橋絵波裕

### ファーストアルバム

### 『橋本絵莉子波多野裕文』

KSCJ 2950 ¥2,800+税

- 1. 作り方 [1:24]
- 2. 飛翔 [5:00]
- 3. 幸男 [5:24]
- 4. ノウハウ [3:44]
- 5. トークトーク [4:20]
- 6. 流行語大賞 [3:25]
- 7. アメリカンヴィンテージ [6:10]
- 8. 君サイドから [3:34]
- 9. 臨時ダイヤ [5:11]



# 1st Album 発売中

www.yabaiojis.com

Kivon NOT FOR SALE